

◆2つの世界大戦や冷戦等、20世紀の英国の諜報活動に関する記録

英国国立公文書館所蔵 機密解除文書オンライン

20世紀大英帝国における諜報

Declassified Documents Online: Twentieth-Century British Intelligence

20世紀大英帝国の諜報に関する史料 50万ページ超を収録

本商品は、英国国立公文書館が所蔵するイギリス国家情報機関の機密解除文書を電子化して提供しております。
Part I: An Intelligence Empire (諜報の帝国)では、国家情報機関の中核をなす情報局保安部 (MI5)、国防省、内閣府の文書に加え、第二次世界大戦開戦後に創設されて終戦直後に解散した特殊作戦執行部と旧植民地省の文書を収録しています。

2022年3月にリリースされた **Part II: Monitoring the World (傍受される世界)**では、MI5と並ぶ情報3機関のひとつであるひとつである政府通信本部 (Government Communications Headquarters: GCHQ) と内閣府 (Cabinet Office) の情報関係機関の文書が収録されております。

英国政府の国家情報機関からの文書をまとめた本データベースにおける、第二次大戦期の大英帝国による連合国および枢軸国における諜報活動、そして冷戦期の地政学にいたるまで、20世紀を通じた大英帝国の諜報機関に関する詳細な機密情報へのアクセスにより、脱植民地化など、グローバルな政策と戦略に関する新しい視点のみならず、ファシズム、ナチズム、共産主義、第二次世界大戦、東西冷戦など、20世紀の重要問題群を再検討する資料群を研究者に提供いたします。



FTE	<5,000	<15,000	<30,000	30,001+
Declassified Documents Online Twenties Century British Intelligence I 買い切り 価格	価格は弊社までお問い合わせください			
Declassified Documents Online Twenties Century British Intelligence II 買い切り 価格				

※大学・学術機関向け IP アドレス接続/同時アクセス無制限でのご利用となります。

※年間管理費(ホスティング・フィー)は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

無料トライアル承ります!! 詳細は弊社までお申し付けください

日本指定代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
 〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
 075(353)2093 FAX (353)2096
 092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp



第一部：諜報の帝国 Part I: An Intelligence Empire

MI5、国防省、内閣府、植民地省、特殊作戦執行部の文書を収録

本データベースは、英国公文書館が所蔵するイギリス国家情報機関の文書を搭載するものです。この度リリースされた第一部は、国家情報機関の中核をなす情報局保安部、国防省、内閣府の文書に加え、第二次大戦開戦後に創設され終戦直後に解散した特殊作戦執行部（Special Operations Executive）と旧植民地省の文書を収録します。弊社は米国機密解除文書を搭載する U.S. Declassified Documents Online を提供していますが、本データベースと USDDO では文書選定基準が異なります。USDDO が情報公開制度により機密解除された文書群で構成されるのに対して、本データベースは関係省庁の判断で開示され、英国公文書館に移管された文書群で構成されています。2022 年にリリースされる予定の第二部は、“The Agencies” の一つ、政府通信本部（GCHQ）の文書を搭載する予定です。（秘密情報部（MI6）の文書は英国公文書館への移管が法的に求められていないため、本データベースには収録されません）

イギリス国家情報機関

イギリス国家情報機関の歴史は 20 世紀初頭にまで遡ります。歴史的な事情により、その時々目的に応じて情報機関が設立された結果、複数の情報機関が分立して、現在に至っていますが、現在は“*The Agencies*”（情報三機関）と総称される情報局保安部（The Security Service）（通称 MI5）、秘密情報部（The Secret Intelligence Service）（通称 MI6）、政府通信本部（General Communications Headquarters, GCHQ）の他、国防省の国防情報部（Defence Intelligence）、内閣府の合同情報委員会（Joint Intelligence Committee）、統合テロ分析センター（The Joint Terrorism Analysis Center, JTAC）等が国家情報機関を構成しています。イギリスは世界に植民地を保有していたため、情報機関の活動は世界各国に及びました。これらの情報機関が政府の政策決定に有益な情報提供を行なった結果、政府諸機関に膨大な情報が収集されました。

ファシズム、ナチズム、共産主義、第二次大戦、冷戦等、 20 世紀の重要問題群の再検討のための学術資料

イギリス情報機関は長く、その活動内容が明らかにされることがなく、MI5、MI6 といった謎めいた呼称とともに、秘密のベールに包まれていました。一般にその存在が知られるようになったのは 1980 年代以降のことに過ぎません。情報機関が組織の目的を効果的に達成するためにはその活動を秘密裏に行うことが必要とされますが、一方で近年は民主主義社会の説明責任が情報機関にも求められるようになってきました。また、情報機関の法的根拠を定めるために、法整備も進んでいます。例えば、20 世紀初頭に起源をもつ情報局保安部は 1989 年の保安法により初めて法的根拠を与えられ、その存在が公式に認知されるようになりました。長官の名前がメディアで言及されるようになったのもこの頃です。1993 年には『情報局保安部（The Security Service）』と題した冊子を公刊し、その活動を広く説明する姿勢を一層鮮明にしています。このような状況の中で従来、国際政治の裏面史の扱いを受けてきた情報機関の歴史は、ようやく本格的な学術研究の対象となる環境が整備されつつあります。本データベースはこのような環境整備の一環としてリリースされるもので、ファシズム、ナチズム、共産主義、第二次大戦、東西冷戦等、20 世紀の重要な問題群を学問的に再検討する資料群として有益なものです。



【情報局保安部 The Security Service(MI5)】

20世紀初頭にドイツに対する諜報作戦の必要から創設された組織に起源を持ち、戦間期はファシズム、ナチズム、共産主義、戦後冷戦時代はソ連等の共産主義諸国、1970年代以降はテロリズムを主要ターゲットに諜報作戦を展開した英国国家情報機関の中核組織の一つ。1989年の保安法で法的根拠を与えられ内務省の管轄下に置かれました。個人ファイル(KV2)、主題ファイル(KV3)、方針ファイル(KV4)を収録します。

【収録ファイル数:1,001ファイル/対象期間:1905年～1978年】

KV 2: 情報局保安部:個人ファイル:情報局保安部の調査事案の主題 1916年-1967年

※108ファイルのうち、機密解除されている86ファイル(KV 2/2574～KV 2/4364)を電子化しています

KV 3: 情報局保安部:主題ファイル 1905年-1978年

※446ファイルすべてが機密解除され、電子化されています

＜収録ファイル例＞

KV 3/251-254: 東インド諸島、海峽植民地、インドにおける日本のスパイ活動(1934-49)

KV 3/295-297: 日本の保安機関の組織(1936-47, 1954-55)

KV 3/349-351: 赤いオーケストラ事件(1949)

KV 3/415-416: 1935年12月のシンガポールにおける日本のスパイ事件(1934-41)

KV 3/426: マラヤにおける日本の諜報活動(1940-55)

KV 4: 情報局保安部:方針ファイル 1909年-1963年

※470ファイルのうち、機密解除されている469ファイルを電子化しています

＜収録ファイル例＞

KV 4/1-3: 情報局保安部の歴史: その問題と組織の調整 1908年-1945年(1944-46)

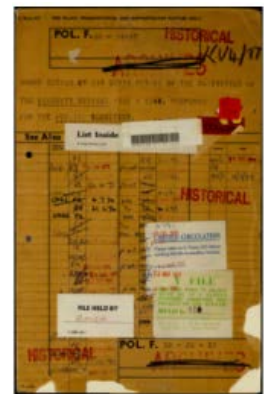
KV 4/99: Camp 020の歴史(1945)

KV 4/112-113: 1909年から1937年までのMI5事件概説(2巻)(1909-37)

KV 4/210: イギリス工作員の保護のためのユーゴスラビア政府との協議(1944-45)

KV 4/221: 郵便開封に関する情報漏洩事件 1926年-1932年(1926-32)

KV 4/232-233: IRA取り締まりの方針(1939-42)



【国防省 Ministry of Defence】

英国国家情報機関の一翼を担う国防省の国防情報部。経済情報を管理する合同情報部、陸海空軍の科学情報を管理する科学情報部、これらの組織を統合した国防情報参謀部が1964年に成立、その後、国防情報部に名称を変更しています。科学情報と原子力情報を扱うファイル(DEFE 21, 41, 44)、経済情報を扱うファイル(DEFE 64)、陸海軍三軍情報を扱うファイル(DEFE 62, 63)を収録します。

【収録ファイル数:1,065ファイル/対象期間:1912年～2000年】

DEFE 21: 国防省:科学情報局:合同情報部:科学情報課と原子力情報課と科学技術情報局:登録ファイル

※80ファイルのうち、機密解除されている51ファイルを電子化しています

＜収録ファイル例＞

DEFE 21/7: 1956年のソ連使節団の英国訪問(1956-59)

DEFE 21/15: ドイツの科学者と技術者: 緊急避難(1949-53)

DEFE 21/23: STIBの将来(1950-56)

DEFE 44: 国防省:科学情報局:合同情報部:科学情報課と原子力情報課:国防情報参謀部:科学技術情報局:報告、覚書、メモ

※494ファイルのうち、機密解除されている298ファイルを電子化しています

＜収録ファイル例＞

DEFE 44/19: ソ連の科学技術高等訓練の趨勢(1958)

DEFE 44/65: ソ連と衛生諸国のコンピュータ(1962)

DEFE 44/102: 1965年のインド・パキスタン戦争(1966)

DEFE 41: 外務省と国防省:科学技術情報課と海外連絡調整課:登録ファイル

※161ファイルのうち、機密解除されている156ファイルを電子化しています



DEFE 28: 国防省:先進計画局:登録ファイル

※190 ファイルのうち、機密解除されている 116 ファイルを電子化しています
<収録ファイル例>
DEFE 28/42: 中東におけるイギリスとエジプトの摩擦 (1953)
DEFE 28/189: マラヤにおける欺瞞作戦 (1950-1952)

DEFE 31: 国防省一国防情報参謀部:情報長官(後の国防情報長官):国防参謀副長官:情報運営・支援局:国防情報参謀事務局:登録ファイル

※304 ファイルのうち、機密解除されている 151 ファイルを電子化しています
<収録ファイル例>
DEFE 31/145-149: 1973 年の中東戦争 (1973-74)
DEFE 31/208: 諜報: フォークランド諸島: 一般 (1983-88)

DEFE 26: 国防省:国防信号部:登録ファイル

※23 ファイルのうち、機密解除されている 10 ファイルを電子化しています

DEFE 60: 国防省:合同情報部:経済総合課(後の合同軍・経済情報課):情報評価、報告、覚書、概観

※236 ファイルのうち、機密解除されている 187 ファイルを電子化しています

DEFE 62: 国防省一国防情報参謀部:情報長官(後の国防情報長官):国防参謀副長官:情報運営・支援局:国防情報参謀事務局:情報評価、報告、研究

※12 ファイルのうち、機密解除されている 4 ファイルを電子化しています

DEFE 63: 国防省一国防情報参謀部:軍情報局

※98 ファイルのうち、機密解除されている 62 ファイルを電子化しています

DEFE 64: 国防省一国防情報参謀部:経済情報局:情報評価、報告、研究

※176 ファイルのうち、機密解除されている 26 ファイルを電子化しています
<収録ファイル例>
DEFE 64/8: イギリス諜報概観: シリアの国防 (1970)
DEFE 64/112: 日本と韓国: 飛行場と飛行艇の基地 (1966-72)

【内閣府 Cabinet Office】

各種情報機関から提供されるしばしば相矛盾する情報を分析評価し、閣僚や政府高官に提供することを主要な任務とする合同情報委員会。1936年に帝国国防委員会傘下の合同情報小委員会として創設され、スエズ危機後に内閣府に移管されたことにより、内閣府が国家情報機関の中核に位置づけられるようになりました。帝国国防委員会の合同情報小委員会の議事録と覚書のファイル (CAB 56)、高度機密情報の流通を制限するために1941年に創設された特別機密情報センターの文書のファイル (CAB 121)、内閣官房議事録のファイル (CAB 176)、内閣官房長の文書のファイル (CAB 301) を収録します。

【収録ファイル数:559 ファイル/対象期間:1936年~1974年】

CAB 56: 帝国国防委員会:合同情報小委員会:議事録と覚書 1936年-1939年、1974年

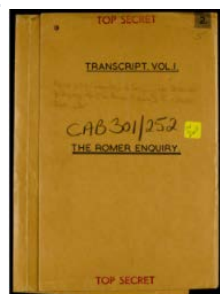
※7 ファイルすべてが機密解除され、電子化されています

CAB 121: 内閣府:特別機密情報センター:ファイル A/方針と戦略 1940年-1951年

※175 ファイルすべてが機密解除され、電子化されています

<収録ファイル例>

CAB 121/47: ドイツのフランス占領地域 (1944-45)
CAB 121/82-84: 休戦管理委員会: 日本 VOL.I-III (1944-47)
CAB 121/124: 日本の最終的敗北におけるイギリスの役割 (1945)



CAB 176: 戦時内閣:国防省と内閣府:合同情報小委員会(後の合同情報委員会):事務局:議事録 1942年-1957年

※63 ファイルのうち、機密解除されている 40 ファイルを電子化しています

CAB 301: 内閣府:内閣官房長の文書 1936年-1969年

※すべてのファイルの中から諜報関係の 335 ファイルを電子化しています

【植民地省 Colonial Office】

植民地が独立した 1950 年代から 60 年代にかけては東西冷戦の時期でもあり、植民地の政治動向によっては独立後の国家がソ連を盟主とする東側陣営の一員になる可能性があります。そのため、植民地省は諜報活動を積極的に展開しました。1954 年から 1966 年までの植民地省の諜報・治安課のファイル (CO 1035) を収録します。

【収録ファイル数:212 ファイル／対象期間:1954 年～1966 年】

CO 1035: 植民地省: 情報・治安課: 登録ファイル 1954 年-1956 年

※353 ファイルのうち、機密解除されている 212 ファイルを電子化しています

＜収録ファイル例＞

- CO 1035/8: シンガポール憲法制定会議における諜報と治安の側面 (1956-57)
- CO 1035/15: 合同情報委員会の側面: マラヤとシンガポールの状況 (1955-56)
- CO 1035/17-18: アフリカにおけるソ連の影響力: アフリカにおけるソ連の利害 (1955-57)
- CO 1035/21: 植民地におけるエジプトの影響力: スエズ危機への反応 (1956)
- CO 1035/24: エジプトのスエズ運河国有化: 合同情報委員会の報告: 植民地における効果: 含意 (1956)
- CO 1035/25: エジプトのスエズ運河国有化: 合同情報委員会の報告: 考えられ得る今後のナセルの行動 (1956)
- CO 1035/30: 植民地における諜報機関: ケニア (1956)
- CO 1035/37: 植民地における諜報機関: 地中海地域 (マルタとジブラルタル) (1956)
- CO 1035/38: 植民地における諜報機関: マラヤ連邦 (1956)
- CO 1035/39: 植民地における諜報機関: シンガポール (1956)
- CO 1035/40: 植民地における諜報機関: バハマ (1956-57)
- CO 1035/49: 植民地における諜報機関: 香港 (1956-57)
- CO 1035/51: 植民地における諜報機関: カリブ海沿岸地域 (1956)
- CO 1035/78: 非軍事的侵略に対する香港の脆弱性: 香港における中国共産主義者の活動 (1955-57)
- CO 1035/79: アフリカにおける共産主義の概観: 植民地 (1956)
- CO 1035/82: 極東におけるプロパガンダ: シンガポールから中国への放送 (Debenture 作戦) (1955-56)
- CO 1035/87: 治安情報顧問の報告: 北ローデシアにおける情報機関に関する C.A.ハーバートの報告 (1955-56)
- CO 1035/95: 治安情報顧問の報告: 黄金海岸における情報機関に関する A.M.マクドナルドの報告 (1955)
- CCO 1035/124: 植民地における対破壊活動公式委員会: イギリスにおける中国人学生 (1956)
- CO 1035/126: 植民地における対破壊活動公式委員会: アフリカにおける共産主義 (1956)

【特殊作戦執行部 Special Operations Executive】

ドイツ占領地域で破壊活動を推進し、レジスタンス運動を支援する組織として 1940 年に創設し、戦後まもなく解散した特殊作戦執行部。作戦を記録したファイル (HS 7) と組織運営、財務、人事、計画等の記録や責任者セルボーン卿の文書等、本部のファイル (HS 8) を収録します。

【収録ファイル数:968 ファイル／対象期間:1935 年～1988 年】

HS 7: 特殊作戦執行部: 歴史と戦時日誌: 登録ファイル 1939 年-1988 年

※287 ファイルのうち、機密解除されている 277 ファイルを電子化しています

＜収録ファイル例＞

- HS 7/1: 特殊作戦執行部の歴史 1938 年-1945 年 (1946)
- HS 7/79: アメリカとラテンアメリカにおける特殊作戦執行部の活動 (1944)
- HS 7/85: アラブ諸国における特殊作戦執行部の活動: ペルシア、エジプト、キプロス (1941-43)
- HS 7/105-106: ビルマ部門: 作戦司令官と要員による作戦報告 (1944-45)
- HS 7/123-124: フランス: 自由フランス部門 (1941-61)
- HS 7/127-133: フランス: フランス解放へのフランス国内軍の参加: 文書、地図、写真付き (1944-45)

HS 7: 経済戦争省、特殊作戦執行部と継承機関: 本部: 記録 1935 年-1973 年

※1,043 ファイルのうち、機密解除されている 691 ファイルを電子化しています

＜収録ファイル例＞

- HS 8/1: 特殊作戦執行部と米戦略情報部の方針と連絡調整: 戦略情報部指令 (1943)
- HS 8/2: 特殊作戦執行部と米戦略情報部の方針と連絡調整: 欧州戦域作戦 (1943-44)
- HS 8/9: 特殊作戦執行部と米戦略情報部の方針と連絡調整: ロンドン合意 (1942-43)
- HS 8/93-97: 求人: 日系人の求人: カナダ (1944-45)
- HS 8/308-309: プロパガンダ: 中東の計画 (1942-46)
- HS 8/430: 歴史: 特殊作戦執行部の歴史の書式の提案: W.J.M.マッケンジー文書 (1945-48)



第二部：傍受される世界 Part II: Monitoring the World

政府通信本部、内閣府の情報関係機関の文書を収録

【政府暗号学校 Government Code & Cypher School (GCCS)】

陸海軍の暗号解読部門を統合して 1919 年に設置された政府暗号学校は創設以来、外交、軍事、通商、政治、個人に関わる暗号通信の傍受、解読を行ない、解読した暗号情報（シギント）を政府に提供し、他の情報機関と連携するのを主要な任務としてきました。戦後 1946 年に政府通信本部に改称しますが、1970 年代にジャーナリストの調査報道によりその存在が明らかにされるまで、長く秘密のベールに包まれていました。収録文書がカバーするのは第一次大戦の始まった 1914 年から 1980 年代半ばまでの約 70 年間ですが、文書の大半は第二次大戦の始まった 1939 年から 1950 年までの 15 年間です。第二次大戦期、政府暗号学校はイギリスの暗号解読の一大拠点となります。特にドイツの暗号解読は有名で、天才数学者アラン・チューリングが参加し、今や伝説と化したエニグマ解読作戦は政府暗号学校を拠点に行われたものです。本データベースには**エニグマ作戦を筆頭に、政府暗号学校が傍受、解読した連合国や枢軸国に関する多くの暗号文書**が収録されています。カナダ、イタリア、香港、シンガポール、オーストラリア、パレスチナ、エジプト、スーダン等にも支部を設置した政府暗号学校の暗号解読作業の対象は、世界各国の政府、軍の情報に及びました。第二次大戦中にアメリカによって始められ、戦後イギリス、オーストラリア、カナダ等の西側諸国が参加して行われたソ連の暗号解読プロジェクト（ヴェノナ・プロジェクト）に関する文書が含まれているのも大きな特徴です。

- HW 3: 政府暗号学校 と前身の機関：個人文書、非公式 文書、外務省ファイルほか
- HW 4: 政府暗号学校：極東合同部、極東 信号情報センター：記録
- HW 7: ルーム 40（イギリス海軍暗号解読部門）と後継機関：第一次大戦公式 戦史
- HW 11: 政府暗号学校：第二次大戦公式 戦史
- HW 12: 政府暗号学校：外交部とその前身：外交電信等の通信情報の傍受・解読記録（BJ シリーズ）
- HW 13: 政府暗号学校：シギントに基づく第二次大戦情報摘要
- HW 14: 政府暗号学校：第二次大戦政策文書
- HW 15: 政府暗号学校と政府通信本部：ヴェロナ・プロジェクト：記録
- HW 20: 政府暗号学校：連合国総司令部へ送付された戦術的シギント：摘要
- HW 41: 政府暗号学校 戦闘地域信号情報部門：信号傍受 の報告 と部門の歴史
- HW 43: 政府暗号学校：イギリスのシギント の歴史
- HW 44: 政府暗号学校：摘要 報告、極東における第二次大戦
- HW 49: 政府暗号学校：特別連携 部門：歴史
- HW 51: 政府暗号学校：中東合同部：記録
- HW 52: 政府暗号学校：プリスペイン本部：報告
- HW 60: 政府暗号学校：連合国遠征軍最高司令部（SHAEF 信号 情報）：記録
- HW 61: 政府暗号学校：英連邦と連合国信号情報組織に関する記録



【内閣府 The Cabinet Office, Central Intelligence Machinery Files】

政府通信本部と並び、収録文書のもう一つの柱をなすのが内閣府の情報関係機関の文書です。1936 年 1 月、帝国国防衛委員会（Committee of Imperial Defence）の傘下に陸海空三軍間情報委員会（Inter-Service Intelligence Committee）が創設され、同年 7 月、合同情報小委員会（Joint Intelligence Sub-Committee）に改称、三軍の情報部門の責任者と外務省等関係省庁のスタッフで構成され、様々な部門が収集した情報を一元的に管理し、政府首脳部への報告や勧告を行なう省庁間連携機関として今日に至るまで存続しています。収録ファイルは、国家安全保障と情報に関わる政府省庁の任務、情報の収集・管理と大臣、参謀本部その他の省庁への伝達に関するものです。

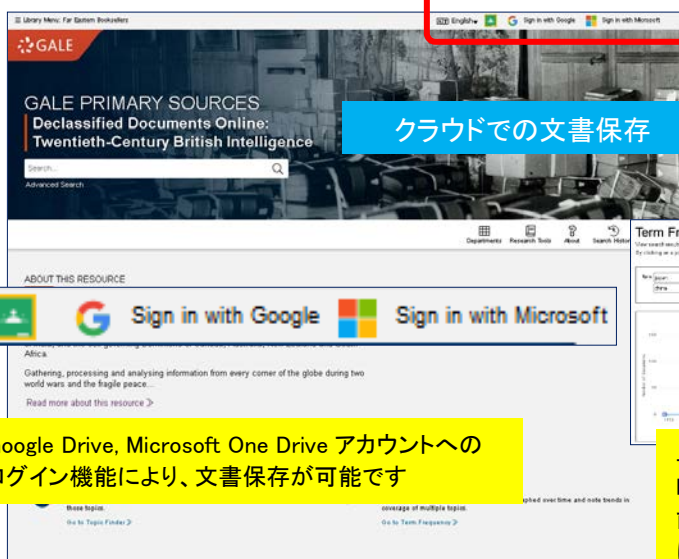
- CAB 159: 国防省と内閣府：中央情報機構：合同情報小委員会（後に合同情報委員会）：議事録（JIS シリーズ）1947-1968 年
- CAB 163: 戦時内閣、国防省、内閣府：中央情報機構：合同情報小委員会（後に合同情報委員会）：事務局：ファイル 1939-1986 年
- CAB 179: 国防省と内閣府：中央情報機構：合同情報委員会：週刊レビューとサーベイ（WRCL、JIC(WSD)）

- CAB 182: 内閣府：中央情報機構：合同情報委員会：小委員会、ワーキングペーパーほか：議事録、覚書、文書
- CAB 185: 内閣府：中央情報機構：合同情報委員会：議事録 (JIS(A)、JIC)
- CAB 186: 内閣府：中央情報機構：合同情報委員会：覚書 (JIC(A), JIC)
- CAB 188: 内閣府、中央情報機構、合同情報委員会 (B) と海外経済情報委員会：議事録、覚書とその他の文書
- CAB 190: 内閣府：中央情報機構：合同情報委員会：ワーキンググループとワーキングペーパー、議事録、報告 (INT シリーズ)
- CAB 191: 海外合同情報グループ：断片記録

本アーカイブにより、政府暗号学校時代以来の政府通信本部で実施された暗号の傍受と解読作業、内閣における国家安全保障関係の情報の収集・管理と政府首脳への勧告の全貌が一次資料を通して初めて明らかになります。

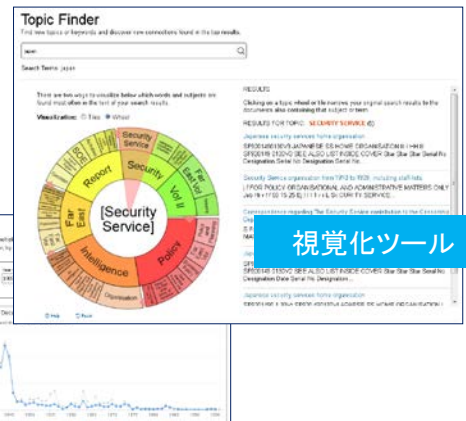
《データベースの概要》

- ◆ 原本所蔵機関： UK National Archives (英国公文書館)
- ◆ 収録期間：1905 年から 2002 年まで
- ◆ 収録ページ数： 1,250,000 ページ以上のタイプ打ち原稿、手稿文書
- ◆ 6つの部門 (Cabinet Office/Colonial Office/Government Communications Headquarters/Ministry of Defence/Special Operations Executive/The Security Service) で収録文書のブラウズが可能



クラウドでの文書保存

Google Drive, Microsoft One Drive アカウントへのログイン機能により、文書保存が可能です



視覚化ツール

単語の時系列での出現頻度をグラフ化する機能 (Term Frequency)、検索語の関連ワードを視覚的に表示する機能 (Topic Finder) を実装することで、通常の検索や閲覧とは異なるアプローチにより、意外な発見に導きます

Manuscript Number	Document Title	Date
KV 4/1	History of the Security Service, its problems and organisational adjustments 1908-1945 and arrangements for its compilation	March 30, 1944-March 31, 1946
KV 4/2	History of the Security Service, its problems and organisational adjustments 1941-1945 and arrangements for its compilation	March 30, 1944-March 31, 1946
KV 4/3	History of the Security Service, its problems and organisational adjustments 1941-1945 and arrangements for its compilation	March 30, 1944-March 31, 1946

収録文書全体が文書番号順に配列されており、原資料所蔵機関における文書の構成がわかる仕組みになっております。文書全体を俯瞰するだけでなく、リンクから特定の文書にアクセスできます

Security Service

Subject and Policy files of the Security Service (MS, MS hundred intelligence gathering within the Empire and the Commonwealth, and had its origin in the Committee of Imperial Defence, established in 1909, a sub-committee of this, established to plan counter measures against a possible German invasion, proposed the creation of a Secret Service Bureau to deal with intelligence from abroad, files with and will be responsible for counter-espionage in the United Kingdom and in the colonies.

It was established jointly by Captain Vernon G. W. Keel, appointed as the Director of Military Intelligence at the War Office and Captain Mansfield Cumming of the Royal Navy. Cumming, known simply as 'C', was responsible for counter-espionage within Britain. During the First World War, the Bureau was reorganised as a branch of the War Office by Sir order HOS Gordon, who acted as its permanent military chief and director, via sub-sections. It later divided into three sub-divisions in 1914. In January 1962 it became part of a new Directorate of Intelligence and the sub-sections MOS (a) to (c) became MB whereas the:

2. Personal (PF Series) Files: Subjects of Security Service Enquiry (SE)

Source Institution: The National Archives (Kew, United Kingdom)

Manuscript Number	Document Title	Date
KV 4/1	History of the Security Service, its problems and organisational adjustments 1908-1945 and arrangements for its compilation	March 30, 1944-March 31, 1946
KV 4/2	History of the Security Service, its problems and organisational adjustments 1941-1945 and arrangements for its compilation	March 30, 1944-March 31, 1946
KV 4/3	History of the Security Service, its problems and organisational adjustments 1941-1945 and arrangements for its compilation	March 30, 1944-March 31, 1946



Search for in

And in

And in

Allow variations

Keyword
 Keyword
 Entire Document
 Document Title
 Subject
Manuscript Number
 Gale Document Number

各文書には、Title(文書名)、Subcollection (英国国立公文書館のレファレンス番号とファイル名)、Creation Date (文書作成日)、Declassified Date (機密解除日)、Classification Level (機密レベル)、Regional Focus (対象地域)、Language (言語)、Manuscript Number (英国国立公文書館の文書番号)、などのメタデータが付与されています。
 詳細検索画面で Manuscript Number を指定して検索することもできます

Title
 Allied strategy in the event of nuclear attack in a global war: nuclear strike planning in the Far East

Subcollection
 CAB 163: War Cabinet, Ministry of Defence, and Cabinet Office: Central Intelligence Machinery: Joint Intelligence Sub-Committee, later Committee: Secretariat: Files

Creation Date
 December 19, 1960-December 21, 1962

Declassified Date
 January 1, 1963

Classification Level
 Top Secret

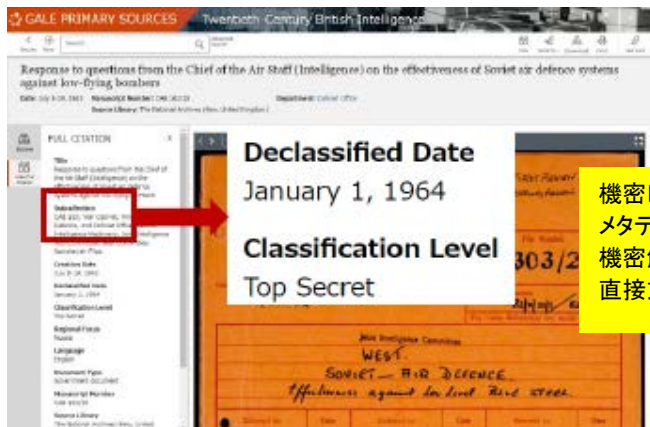
Regional Focus
 East Asia; Southeast Asia

Language
 English

Document Type
 Government document

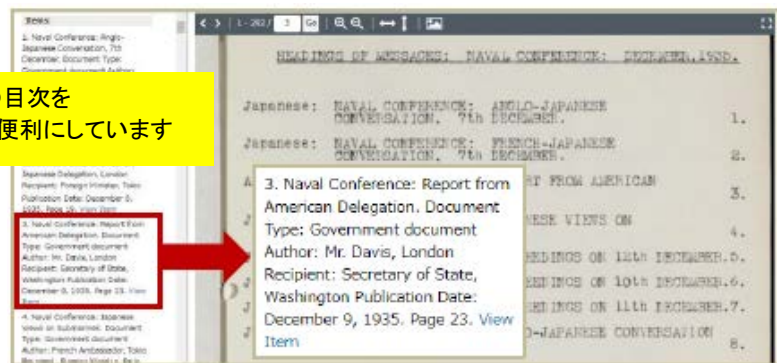
Manuscript Number
 CAB 163/22

Source Library
 The National Archives (Kew, United Kingdom)



機密レベルについては、それぞれの文書を確認した上でメタデータを作成しています。
 機密解除日について公文書館に記録が無い場合には、直接文書を確認してメタデータを作成しています

HW12 シリーズについては、各巻頭の目次を Manuscripts Notes に変換し、閲覧を便利にしています



HIGHLIGHTS OF THE COLLECTION

- 自由フランス(Free French)など第二次世界大戦時の抵抗運動のネットワークに関する情報
- SOE によるジエドバラ作戦のパラシュートチームの詳細
- 合同情報委員会 (Joint Intelligence Committee) の評価
- 第二次世界大戦のドイツの諜報機関に関する報告
- 冷戦期ソヴィエトの技術と監視の記録
- 1950 年代英領植民地における英国諜報機関の組織と活動に関する資料

以上の他にも様々な 20 世紀大英帝国の諜報に関する史料を収録しております

Declassified Documents Online の詳細は弊社までお申し付けください

株式会社 極東書店

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp